

関東農政局長賞受賞

受賞者 中山間地域事業上ノ貝戸集落協定会「大内沢花桃の郷」
(埼玉県秩父郡東秩父村)

【遊休農地に花桃を植えて、美しく豊かな自然の残る集落にしよう】

1 取組の動機と背景

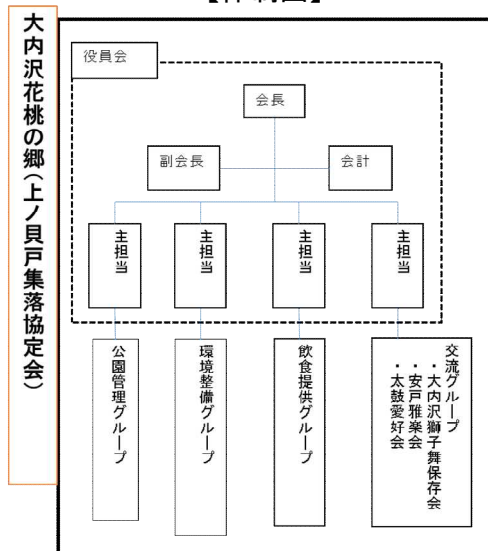
上ノ貝戸地区では、山の斜面にある小区画の田畑における営農が主体であったが、農外収入を求め村外での兼業化が進んでいった。このことにより、手間のかかる小区画の田畑の管理は一層困難となり、耕作放棄地は増加していった。加えて高齢化も顕著となり、農家が個々で農地を管理することが難しい状況になっていった。このような中、平成12年度から、中山間地域等直接支払制度がはじまり、農業の生産条件が不利な地域でも農業生産活動を継続できるような助成金が得られるようになると、これを活用し、遊休農地等の解消を目指す機運が集落で高まっていった。当初は、みかん類の植栽を通じた生産・販売により耕作放棄地の解消を実施していく方針であったが、昭和40年代より花桃をはじめとする枝物の産地でもあったことから、植栽の中心を花桃に変更し、この花桃を地域の枝物生産者に収穫・出荷してもらうことで産地の維持に貢献する取組とした。この取組を通じ、産地の維持に加え、花桃の開花時期には美しい景観が見られるようになり、多くの観光客が地域へ訪れ、都市住民との交流が図られるとともに、住民も観光客も気持ちよく過ごせる美しい地域づくり活動が行われている。

2 主なむらづくりの内容

- 個々の地主の力では復元不可能であった遊休農地を、中山間地域等直接支払制度を利用した共同活動により、まとまった面積5haを整備している。また、地域で産地を形成している花桃を7000本植栽することにより、地域の枝物生産者が植栽した花桃の枝を出荷できるようになり、生産者の所得向上に加え、土地所有者も収入を得られる仕組みが構築され、遊休農地解消後も農地の保全が継続されるとともに産地維持に貢献している。上ノ貝戸地区の活動が始まってから、隣接地区なども含め3名の新規生産者が確保されたことから、今後も花桃等の植栽を継続し、生産者に花桃を提供するなどの活動を継続していくこととしている。
- まとまった面積に花桃を植栽することで開花時期には美しい景観がみられるようになったことから、花桃まつりを開催(13回目)し、大勢の観光客(約7000人)が訪れている。その花桃まつりでは地区住民が作った農産物の販売や地域の暮らしなどの紹介を通じて、都市住民との交流が図られ、地区住民の農業生産意欲が向上している。
- 花桃などの花を植栽することで、美しい景観をつくり、誰もが笑顔と思いやりの心で満たされる環境が創造されている。心身ともに健康で生きがいを持てる地域を目指して、今後も遊休農地に花を植え、美しい景観と豊かな自然を守るための活動を継続したいと考えている。また、農産物の生産が少ない花桃まつりの時期(3月末)に収穫・販売できる新たな作物(ウド等)の生産振興も協議会として取組を進めている。

3 むらづくりの推進体制

【体制図】



【連携図】

